

令和5年度 地理歴史科

教科	地理歴史	科目	日本史 A	単位数	2単位	年次	3年次
使用教科書	高等学校「日本史A 新訂版」(清水書院)						
副教材等	なし						

1 担当者からのメッセージ(学習方法等)

- ・「なぜ」そうなったかを、多角的に思考する。
- ・現代社会に至るまでの歴史に興味関心を持つ。
- ・物事をじっくりと、広い視野から考えることに慣れる。

2 学習の到達目標

- ・日本の歴史を、国際的な視点でとらえることができる。
- ・当時の時代背景を含め、伝統と文化の特色について理解できる。
- ・歴史の学習を通して、国際社会を見通す考察力を身につける。

3 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観 点 の 趣 旨	日本が国際社会の一員としてどのような歴史を経験したのか、広い立場から理解しようとする意欲的な態度が見られる。	歴史的事象に至るまでの経緯を、様々な背景を含めた上で思考することができる。また、歴史の違う可能性を考察し、自身の判断を表現することができる。	史料から、当時の政治や社会情勢、生活のようすなどあらゆる情報を読みとり、表現することができる。	歴史的事象を国際社会や、当時の人々の生活など幅広い視点から理解することができる。
評 価 方 法	授業プリント 発表やレポート	授業プリント 発表やレポート 定期考査	授業プリント レポート 定期考査	授業プリント レポート 定期考査

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和3年度以前入学生用

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	近代史以前の歴史	1 日本の近代史以前	○	○	○		a:現代と異なる政治や生活、文化などに関して積極的に理解しようとする態度が見られる。 b:歴史的事象に至るまでをその背景を含め考察することができる。 c: 諸史料からその時代背景を読み取ることができる。 d:近現代に至る歴史を、国際的な視点など幅広い視野から理解することができる。	授業プリント レポート 定期考査
		2 幕藩体制と世界		○	○			
		3 近現代はどういう時代か	○					
	幕藩体制の動揺と明治維新	1 19世紀の世界とアジア	○			○	a: 広い視野に立って日本の開国を捉えようとする態度が見られる。 b: 諸外国の狙いと日本の立場を客観的に捉えることができる。 c: 諸史料より、日本と諸外国のそれぞれの狙いや、明治維新における幕府・各藩の志向を読みとり、まとめることができる。 d: 日本の近代化に至る経緯を、国際的な視野に立って理解することができる。	授業プリント 発表 定期考査
2 外国の接近と幕藩体制の動揺			○	○				
3 開国と明治維新			○	○	○			

※令和3年度以前入学生用

2 学期	日本の立憲政体の成立と国際地位の向上	1 自由民権運動と初期議会	○	○			a: 日本の近代国家へのあゆみをあらゆる出来事から知ろうとする意欲が見られる。 b: 国内や国際的な対立をあらゆる立場から考察し、自身の考えを表現することができる。 c: 諸史料より、日本の国際的立場の変遷を読み取ることができる。 d: 日本の近代化を、その時代背景や国際的な視野を踏まえた上で理解することができる。	授業プリント レポート 発表 定期考査
		2 条約改正のあゆみ	○		○			
3 戦争と近代化				○	○			
	大戦期の世界と日本	1 第一次世界大戦と日本	○		○		a: 二度の大戦に伴う国際社会の変化と、日本の立場や変化を理解しようとする意欲が見られる。 b: 戦争という事象を客観的かつ国際的な背景から考察し、自身の考えを表現できる。 c: 諸史料を活用し、地理的観点から戦争を理解することができる。 d: 戦争に至る経緯を多角的に理解し、当時の人々の生活を知ることができる。	授業プリント レポート 発表 定期考査
		2 第二次世界大戦と日本	○	○		○		
3 学期	現代世界と日本	1 戦後の日本と国際社会	○			○	a: 現代につながる戦後日本の変化を理解しようとする態度が見られる。 b: 国際社会における日本の立場と役割を考察し表現することができる。 c: 諸資料より日本の経済発展等を捉えることができる。 d: 戦後日本の国際復帰や、その後の日本社会の変化を理解することができる。	授業プリント レポート 発表 定期考査
	2 経済発展と国民生活	○	○	○				
	3 現代の日本と世界			○	○			

※ 表中の観点について a: 関心・意欲・態度      b: 思考・判断・表現  
c: 技能      d: 知識・理解

※ 年間指導計画（例）作成上の留意点

- ・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。